

令和7年度 第2回 南陽中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年10月15日（水） 13時45分から15時30分まで
- 2 開催場所 南陽中学校 会議室
- 3 出席委員 増田哲也・加藤裕之・鈴木和枝・岡田真澄
- 4 欠席委員 増田亜美・赤星順子（学校支援コーディネーター兼務）
- 5 オブザーバー 南陽協働センター 袴田唯之
- 6 学 校 松下直由（校長）・高塚陽子（教頭）・石塚琢磨（教務）・三高奈緒子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 清水悠
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター三高奈緒子
- 10 議長の選出

岡田真澄委員が議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）学校の抱える課題（学校運営の基本方針を受けて）と改善策
 - ・学校教育活動について、部活動地域移行について、他
 - ・1学期の学校評価アンケートについて

12 会議記録

司会の高塚から、委員総数6人のうち4人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校の抱える課題（学校運営の基本方針を受けて）と改善策

学校の抱える課題と改善策について、別紙資料に基づき校長から説明があった。次に教務から1学期の学校評価アンケートについて説明があった。委員からは、以下の発言があった。

- ・ 昨年も今回低めの部分は、例えば家庭学習だとか与えられたものではなく自分として学んでいくことの時間の確保や向き合い方が、課題であると思います。学校としては、全体ではいいが個々で計画を立てて進めること、短期的な集中力はあるけども長期的な時間がどうかということを課題として捉えて進んでいこうとさせているので、是非その辺りで今後手を入れていただきたい。文化発表会は生徒の皆さんの集中力、学校愛、クラス愛がよく見えてくるものだった。これだけできるのだから、個々でも長期的なこと、計画的に進めることにどうやって向き合っていくのか。学級、道徳、キャリア教育等いろんな場で具体的な補足ができるといいなと思っています。（鈴木委員）
- ・ 校内を見て、本当に子供たちが落ちついていて、先生も子供たちをよく指導されていて、いつも感心させられます。例えば靴箱と傘がピシッと整頓されていて素晴らしい。他の学校の様子を聞くと結構整理整頓ができないと聞いたことがあります。このアンケートにもそれはやっぱり表れています。そう思う、だいたいそう思うが8割9割方になったのが多いですね。だから先生方のご指導が行き渡っている。子供たちも家庭の保護者も協力してやっているいい学校じゃないかと改めて今日感じました。いい項目例えば2番の「私はまわりの人の良さを認め合える良い関係を築いている。」は素晴らしいですし、5番目の「得意なところを伸ばす努力をしている」というのはいいなと思いました。その上で7番目の「私は南陽中学校が好きだ」が、悪くはないのですが若干やっぱり不満を持っているのかなと思われる子供さんが1割2割ぐらいどの学年にもいる。その辺を学校として何かつかんでいることはあるのかなと思います。もう1点は9番目の睡眠時間が約4分の1が充分でないと回答しています。原因は、スマホやSNSが関係しているのでしょうか。結果は素晴らしいと思って問題はないと思いますが2点教えていただければありがたいです。（加藤委員）

- ・ 部活動地域展開に関して、たとえ20%でも先生が指導者になっていただけることはありがたいなと思います。先生は転勤がありますので、立ち上げの時はいても、その後引き継ぐ先生がいるのかがちょっと心配です。費用面については当然大会で勝っていけば、嬉しい反面費用はかさんでいく。その辺を市が補助してくれるのかどうか、保護者だけの負担だけになっていくことも、今後考えられる。そのあたりを教えていただけたらなと思いました。アンケートは大方心配する項目はないですが、保護者の方で問題になる部分は、実は家庭内で、教育してないということの表れになっています。その事に気づいていらっしゃる保護者が何人いるのだろうか。家庭でしてくださいと伝えるのは、なかなか難しいですから。そういう大人が増えていくように、地域でやっていかなきゃいけないのかなと感じることもある。保護者のあり方はやっぱり大事。(増田会長)
- ・ スマホのような便利なツールが普及して子供たちの気がいって集中力が低下する。学力の低下もあるけども、親世代も携帯に縛られているような気がします。便利な部分もありますが、あまり目が行き届かなかったり、会話がなくなったりする。ルールを決めたり…。親の方も携帯世代かなと思います。(岡田委員)
- 保健室の前日の利用状況の報告を毎日見っていますが、やっぱり寝不足になった原因が遅くまでスマホをしていましたとか、若干いますね。(教頭)
- ・ ギガスクールで各学校、子供たちに端末 デバイスを1台ずつ与えられています。ICT 活用が国際的に増えていますが、そういう方策をやる一面で、デバイス、スマホを使い続けて目を悪くする問題もある。デバイスを与えるときにコンプライアンスの問題などいろいろありますが、特別そういう指導をされているかお聞かせいただきたい。(加藤委員)
- 情報共有のような形で危険を周知するような講座を年に何回か開いたり、PTAの健全育成会でもやったりするのですが、子供たちもその時は怖いなと感想を言うけれど、自分事として落ちているようで落ちていない。自分の身に起きて初めてハッとする。生徒指導だよりも頻繁にそういう話題は取り上げてもらっています。(教頭)
- ICT 活用で、学校でもやっているから家でもやるし、なくてはならない生活なので、それを禁止するのではなく、上手に使えるようにすることが大事だと思います。友達同士の関係で、パワーバランスで表面的には頑張っているけど、 実際は、内面は苦しんでいるという子供たちはいる。そういう子供たちが 我慢ができなくなって、学校に足が向かなくなったり、精神的に落ちつかなくて相談できる保健室に行ったりする。学校としても学校独自でアンケートをとり、普段の生活の中から先生方が見とれるようにしています。我々が忙しくしていると子供たちも相談しづらい。先生方も子供たちに寄り添ってくれているし、もっと子供たちに寄り添う方法を作っていけないといけない。分掌を精査して、一人当たりの分量を減らして相談の時間を作ったり、子供が中心となってレクリエーション活動で認め合いの時間をもつ等、子供たちとの関りを増やしたい。(校長)
- ・ 子供の話を聞く時間がとれない、一番主眼を置くべき学習指導へかける時間が少ないと、何かの先生方対象の調査結果で出たと聞いたことがあります。子供の話をじっくり聞くことができないというのはやっぱり大きいですね。その辺が課題で具体的に分掌を整理すると今おっしゃったので、そういうことをもっと進めていけると、子供たちにとっても不満が残るし、先生にとっても、話を聞きたいと思っても聞く時間がないとなってしまう。大事なことだなと思いました。(加藤委員)

13 報告

赤星さんとは定期的に電話連絡をして学校の現状等を報告し合っていました。(教頭)

14 連絡

令和8年2月6日(金) 13時45分から開催する予定の旨の報告があった。